

コンスティーション地域で乳幼児の健康診断に
当たる看護師ら
|| AMDA提供



健康診断や手洗い指導

チリ大地震

AMDA 乳幼児支援を報告

チリ大地震を受け、被災地で緊急救援活動をしてきた国際医療救援団体「AMDA」(本部・北区)の津曲兼司

医師(33)や看護師ら4

人が20日、北区内で帰国会見を開き、現地で実施した乳幼児支援プロジェクトについて報告した。

チリ大地震は2月27

日に発生し、AMDAは今月5日まで中部マウレ州沿岸部のコンスティーション地域を中心に活動した。津波被害を受けた沿岸部は、海水が川に逆流して家屋が流され、ミルクやおむつが足りないなど乳幼児への支援が不十分だった。このため、チリ政府の救急医療チームや保健省と協力し、乳幼児に対する健康診断を行い、ミルクやビタミン剤などを配布した。プロジェクトは3月で終了し、2歳以下の乳幼児1000人に健康診断と物資配布を行い、80人に歌やダンスで手洗いを指導する保健衛生指導を実施した。

森田佳奈子調整員(30)は「災害弱者の乳幼児を対象に支援した。診療所にアクセスできない村落部は取り

残されがちで、長期間お風呂に入れず、軽度の栄養失調や感染症を起しているケースもあった」と話した。

【椋田佳代】